1971 年 8 月 7 日 第 3 種郵便物認可（毎月 1･6 の日発行）
2022年7月14日発行 SSKA 頸損 通巻 10825号

SSKA 頸損 KEISON No. 137

目　　次

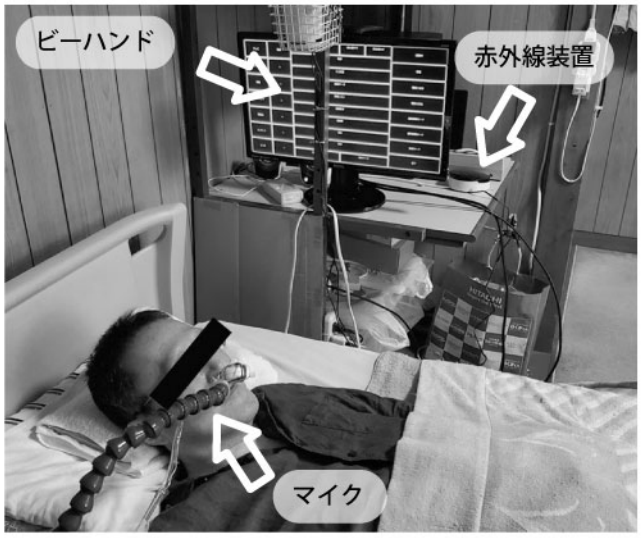
特集 全国頸髄損傷者連絡会総会

第 49 回 全国頸髄損傷者連絡会総会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
全国背髄損傷者連合会との共同開催報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2022 年度 全国頸髄損傷者連絡会 総会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　2022 年度 活動方針提起
　2021 年度 収支報告＆2022 年度 予算案
第 50 回全国総会・兵庫大会を開催するにあたり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
2022・5/28・5/29 DPI 全国集会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
To be yourself「電動車椅子」参加報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第 9 回合同シンポジウム　開催報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
To be yourself「介護リフト」報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
アウトドアにチャレンジ！ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
マリンアクティビティ体験報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
事務局からのお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
書評　「頸髄損傷者の排泄基礎調査」報告書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
施設紹介：別府重度障害者センターについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
40 代で介護保険制度へ移行？ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
支部の活動紹介（福島連絡所） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
頸損解体新書 2020・調査報告書作成を終えて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
お役立ち！？ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
報道・情報ピックアップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
全国頸損連絡会＆関係団体“年間予定” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
全国頸髄損傷者連絡会連絡先 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
編集部のページ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

音声認識 AI 環境制御システム

『BeHAND（ビーハンド）』

介助負担の軽減と自立支援に。



ビーハンドは音声認識 AI を利用した環境制御システムです。
パソコン・テレビ・レコーダー・エアコン・照明・ベッド・電気錠・ドアホン等、
あなたの言葉で操作が出来ます。

【ビーハンド基本システム内容】 TAISｺｰﾄﾞ：02034 - 000001

税込価格 303,600 円～（設置設定費込）

①ビーハンド本体 (パソコン別途)

②単一指向性のフレキシブルマイク (約 75cm)

③赤外線学習装置

※インターネット必要　Windows10 対応

主な特徴

自由な言葉	なまり方言 OK	日本全国訪問設置	一般家電空調制御	IP 電話受発信	電動ベッド制御	電気錠制御	全設定お任せ
設置設定費込み	電源ポン簡単準備	日常生活用具給付	複数 PC 登録	登録台数 14 台	登録信号 800 ボタン	リモート遠隔作業	365 日アフター

詳しい情報は、ホームページをご覧ください。ご質問等は下記まで電話もしくはメールでご連絡ください。また、無料の出張デモをさせていただいておりますので、ご希望の方はご予約ください。

[開発・販売]　リフォームレシピ　岡山県岡山市中区高島二丁目 5-8-2
TEL：090-9467-5660　メール：kataoka@reform-recipe.com

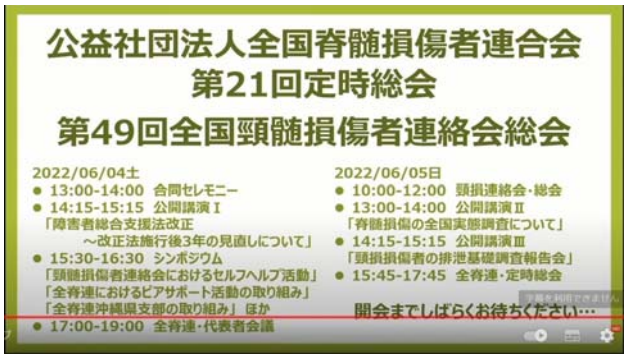
ビーハンド　検索

第 49 回 全国頸髄損傷者連絡会総会

～　四国大会を終えてご挨拶　～

愛媛頸髄損傷者連絡会　会長　井谷　重人

皆様ご承知のことですが、今回、愛媛で全国頸髄損傷者連絡会（全国頸損）、全国脊髄損傷者連合会（全脊連）の合同開催を計画していました。しかし、またもやコロナの影響で愛媛開催は叶わず、本部開催という形になりました。結果的に、6 月 5 日に全国総会は無事に執り行われ、前日の 4 日に式典やシンポジウムも全脊連と合同で実施できました。



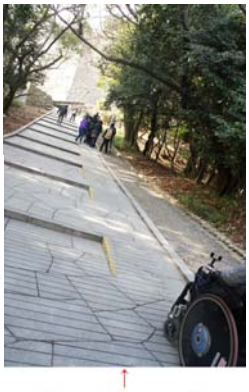
今回は全脊連の大濱さんの強い意向もあり、対面も含めたハイブリッド形式で準備を進めてきました。今年の初めに、「そろそろ動き出しても良いのでは？」という雰囲気を感じ始めたその時！オミクロン大流行！自分が運営する CIL 星空でも初の感染者が出るなど、人を大勢呼んで、総会を開催することに理解が得られなくなってしまいました。結局 3 月になっても準備が進まず、頸損、脊損とも本部が引き継いでくださる形になりました。

自分もいくつもの団体に所属している身なので、大濱さんの「団体を盛り上げたい」という思いで、対面開催を実現させたかったお気持ちは痛い程分かっていたので、今回は、みなさんに本当に申し訳ない気持ちだったし、僕もとても残念でした。

しかし、気を取り直して、逆の角度から考えると自分達としては、愛媛でやる意味を考え直すいい機会になりました。ただ、総会を行うだけなら正直“訪れやすい”とは言えない愛媛で行う必要はないかもしれません。愛媛で行うのであれば、前回の松山城登山の様に自分達もチャレンジし、楽しみ、そして社会も変えることができる内容にしたいと思いました。

先日の代表者会議で、愛知の故近藤実男さんが、私たちに残してくださった言葉の中に、前回の愛媛大会のことが語られていて正直心が震えました。

←2012年
愛媛大会時、
木のスロープ



↑
愛媛大会からスロープが
コンクリートに変わった

頸損になったおかげで、見えなかったものが見えてきて、街を変えよう、社会を良くしようと前に進む私たちと、私たちをサポートしてくださる人達で、もっと素敵な世界にできたら最高だと思います。

全脊連は、2 年後の愛媛大会が決定しています。全国頸損は今のところ、予定はないですが、いつかまた順番が回ってくると思います（笑）その時こそは、皆様の人生に刻まれるような大会にしたいと思います。

全国脊髄損傷者連合会との共同開催報告

全国頸髄損傷者連絡会　会長　鴨治　慎吾

2022年6月4日（土）に全国頸髄損傷者連絡会（以下、全国頸損連）と公益社団法人全国脊髄損傷者連合会（以下、全脊連）とで、第49回全国頸髄損傷者連絡会総会、公益社団法人全国脊髄損傷者連合会第21回定時総会の共同開催をWEBで行いました。

第一日目（YouTubeでライブ配信）
セレモニー　13:00～14:00
公開講演Ⅰ　14:15～15:15
演題：障害者総合支援法改正
～改正法施行後3年の見直しについて
シンポジウム　15:30～16:30
演題：
頸損連絡会のセルフヘルプ活動について
全脊連のピアサポート活動について
全脊連ピアサポーター養成研修について

まず初めに、全脊連の安藤事務局長から合同セレモニーの挨拶があり、故人への黙祷、全脊連代表・大濱氏と全国頸損連会長である私が主催者挨拶を行いました。私からは、全国頸損連として、頸損連絡会の活動方針と、全脊連との共同活動などを引き続き行っていくことを述べさせていただきました。続いて、全脊連代表の大濱氏から、挨拶及び活動報告が述べられました。

その後、全脊連顧問の方々や厚生労働省障害福祉課長からの祝辞、関わりのある皆様方の祝辞をいただきました。

セレモニーが終わり、しばし休憩の後、公開講演として「障害者総合支援法改正　～改正法施行後3年の見直しについて」厚労省障害福祉課長の津曲氏から、サービス量が年々増加していることやこれからの自立支援についての枠組み、入院時の重度訪問介護についてのさらなる拡充の検討、福祉職員についての処遇改善についてをお話しいただきました。

その後、シンポジウムが行われました。
シンポジウムでは、会の活動についての説明があり、全脊連からは、ピアサポート活動及びピアサポーター養成研修についての報告。全国頸損連からは、島本義信氏が今までの頸損連絡会でのセルフヘルプ活動について報告しました。

第二日目
全国頸髄損傷者連絡会総会10:00～12:00
（Zoomで開催、会員限定）
公開講演Ⅱ　13:00～14:00
演題：全国の脊髄損傷の実態調査について
講師：徳島赤十字ひのみね総合療育センター
園長　加藤 真介 氏
公開講演Ⅲ　14:15～15:15
演題：頸損排泄に関するアンケート調査について
講師：全国頸髄損傷者連絡会 宮野秀樹
名古屋産業大学　丸岡稔典

二日目は当会の総会を行いました。

その後、公開講演Ⅱとして日本脊髄障害医学会が行った実態調査についての報告がありました。報告の中では、脊髄損傷のうち、約9割が頸髄損傷であることや高齢化が進んでいることなどが発表されていました。

続いて公開講演Ⅲとして、昨年末から本年にかけて実施した「頸髄損傷者の排泄基礎調査」についての報告を、名古屋産業大学・丸岡氏と全国頸損連・宮野氏が行いました。調査から判明した「排泄方法・介助内容の質・実施者・法律制度」の問題についての報告が行われました。

今回の共同開催にあたり、実行委員及び各関係者の皆様に多大なる感謝を申し上げます。

これからも、この良き連携を深めて、全国脊髄損傷者連合会の皆様とともに、共通する課題の解決について協働して参りたいと思います。

2022 年度 全国頸髄損傷者連絡会 総会報告

事務局長 宮野 秀樹

全国頸髄損傷者連絡会・2022 年度全国総会を 2022 年 6 月 5 日（日）にオンラインで開催しましたことをご報告します。

総会は、2022 年 6 月 4 日・5 日と行われた全国頸髄損傷者連絡会総会の 2 日目の午前中に開催しました。今回の総会は、前年と同様にイベント部分を全国脊髄損傷者連合会との共同開催としました。本来は四国大会として開催するところでしたが、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の感染防止の観点から、今年もオンラインでの開催となりました。オンライン開催となって本部を中心に準備を進めたこともあり、四国大会として実行委員会を組織して運営に携わってくださったメンバーには、十分に役割を果たしてもらうことができませんでした。今後、オンライン総会を開催する際の改善点としたいと考えています。

大会プログラムは、前年に引き続き充実したものとなりました。大会開会セレモニー、障害者総合支援法改正～改正法施行後 3 年の見直しについて～公開講演、ピアサポートシンポジウム、脊髄損傷者の生活実態調査報告、頸髄損傷者の排泄基礎調査報告等、脊髄損傷者・頸髄損傷者にとって必要な情報が得られる貴重な時間を持つことができました。特に「脊髄損傷者の生活実態調査報告」で示された生活における問題は、当会が実施した「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査 2020」や「頸髄損傷者の排泄基礎調査」から判明した問題と共通するものが多く、あらためて両団体での問題解決に向けた協働の必要性を認識しました。

年次総会は、今年も会員の皆様のご協力のおかげで、当日参加者数、委任状数を合わせて総会成立のための定足数を十分に満たすことができ、無事に開催することができました。総会自体は、下記の議事において承認を得ることができました。

・2021 年度 年間活動報告
・2021 年度 収支報告・監査報告
・頸損者を取り巻く現状と課題
・2022 年度 本部役員・事務局体制案
・2022 年度 活動方針提起
・2022 年度 予算案

頸髄損傷者を取り巻く現状と課題でも示しましたが、本年度は障害者権利条約の批准に基づき建設的対話（対日審査）が行われ総括所見（勧告）が出されます。我々の生活を大きく左右する大事な法律などが見直される重要な機会になりますので、さらなる法制度の充実に向けて、関係団体との連携を維持強化して立法府、行政府への積極的な働きかけを行っていく必要があります。また、医療における、受傷後、急性期や回復期から維持期の長期に及ぶ医療と訓練を一貫して提供する体制づくり、雇用・就労における、重度障害者の就労中の介助サービスを実施する自治体の拡充等は、引き続き全国組織として取り組むべき課題として残されています。会員からは、これらの課題は全国脊髄損傷者連合会と協働して、政府や関連省庁および関連機関と交渉活動に取り組むべきではないか、という提案もいただきました。当会としても、全国脊髄損傷者連合会と協力して課題解決に努めたいと考えております。

そして、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら活動を行わなければなりません。多くの関連機関では、感染対策に努めながら対面イベントが実施されつつあります。安心はできませんが、当会でもウイルス感染対策を講じ、会員の安全を図りながら対面イベント実施を視野に活動する必要があります。いくつかの支部では、対面イベントの実施を検討しています。もちろんオンラインイベントも引き続き開催する予定です。今後とも当会の活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

2022 年度 活動方針提起

■活動の基本的な考え方

自分らしくあるために「Take Action(行動を起こす)」しよう！

自分らしくとは、自分で選択し、自分で決定することである。例えば、歩くことだけが移動ではない。障害のない者は、自転車や車なども使う。私たち頸髄損傷者の多くは、歩くことは難しいが、車椅子を使えば移動ができる。これも、移動における自己選択、自己決定である。

どんなに重い障害があっても自律して生きられる社会を求めて、私たちはいつの時代も“Take Action（行動を起こす)”してきた。

「障害者権利条約（以下、条約)」が批准され、障害は個人にあるのではなく、その個人の行動を妨げる社会にあるという考え（社会モデル）をもとに国内法が整備されてきた。私たち抜きに私たちのことを決めさせないという共通の思いの下、障害の枠を超え連帯して声を届けてきたことにより、それが政策反映に結びついている。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(通称:障害者差別解消法)」が 2016 年に施行された。昨年度には同法改正案が審議され、民間事業者の合理的配慮が義務化となり、3 年以内に施行されることが決まった。条約の理念が権利を侵害することなく各国内法に反映されているか、他団体と協力して注視していかなければならない。

昨年度に、頸髄損傷者の自立生活と社会参加の実情とその障壁を解明するため、全国の頸髄損傷者の生活実態についてアンケート調査を行い、その結果をまとめた報告書「頸損解体新書 2020」を発刊した。この調査の中で浮かび上がった、頸髄損傷者が直面する様々な問題の解決を目指してセルフヘルプ活動を行っていく必要がある。

医療では、さらに新しい再生医療の技術による手術が実施され、頸髄損傷者に希望をもたらしている。慢性期の頸髄損傷者への応用も期待するところである。しかし、現状では 2006 年に改正されたレセプト制度になって以降、長期入院が必要な患者は、明確な自立の目標を持てぬままにリハビリを受け、将来設計も描けないまま退院させられている。適切なリハビリサービスが提供できる病院・施設は年々減っており、人生のリカバリーにつまずいている頸髄損傷者が数多くいる。医療・福祉分野において「必要なサービスを、必要な人が、必要な時に」提供されるよう、関係機関に働きかけなければならない。

2020 年初頭に日本で新型コロナウイルス感染症が確認されてから、未だに多くの者が感染・発症し、現在でも終息の目途がついてない。頸髄損傷者は、呼吸を司る神経を損傷したことによる肺活量の低下等の呼吸器疾患を持つ者が多いため、新型コロナウイルス感染症が重症化する危険性が高い。ワクチン接種の必要性、罹患した際の対処法、在宅治療や入院した際のヘルパーサービス利用について等、あらゆる情報提供を行う必要がある。

社会の一員としてあたりまえに生きること、主体性が認められた社会人として生きられる社会にすること

が我々の目指すところである。簡単に実現できることではなく、すぐに成果を目にすることはできないが、諦めず、Take Action を継続しなくてはならない。「自分らしくあるために」、自らが仲間と共に、さらに一歩踏み出さなければならない。

■基本活動

ひとり一人が行動しよう！

頸損者が尊厳を奪われることなく、真にひとりの人間として心豊かに生きるためには、自己信頼の回復が必要になる。それは困難を乗り越え、多くの成功・感動を体験することで取り戻すことができる。

当会には逆境をはねのけ、人生を取り戻した経験者や、幾多の失敗を糧に、次こそは上手くやると困難に挑む挑戦者が数多くいる。必要とする情報を提供して人生を取り戻す一助となるのが当会の最大の目標であり、孤独になりがちな頸損者のためにひとり一人が行動するセルフヘルプ活動を行っている。

頸髄損傷者連絡会は当事者団体ではあるが、情報の提供は会員、非会員を問わず提供することを会活動のひとつとしている。今年度も以下の項目を活動の柱として運動を続ける。

❏頸損者へのセルフヘルプ、ピアサポートを積極的に実践
・各支部間の交流、支部のない地域での出張活動・招待活動等
❏頸損者の抱える問題を共有化し、問題解決の道を具体的に探す
・代表者会議、支部間交流、頸損同士の交流によって問題の共有化を図る
❏情報を収集し、頸損者及び関係機関等への情報提供をより充実させる
・機関誌・ＨＰの内容充実、講演活動の充実
❏障害の枠を超えた各分野との交流・活動
・障害者団体、公的機関、学会、教育機関、分野別メーカーとの交流や関連会合への出席
❏他団体との統一行動
・介助、交通・まちづくり、制度改革などの課題を協力して行政への要請行動を行う

■活動重点目標

☆生活を向上させるための法律・制度・サービス改善交渉を行う
☆当事者の視点による意見を的確に伝えられる人材の育成を目指す
☆障害者支援を目的とする機関とのネットワークを拡げる

■分野別活動方針

●障害者の権利保障

◎地域移行が促進されるための具体的仕組みを障害者総合支援法の改正案の中に組み込むべく、関係団体との連携を強化して立法府、行政府への積極的な働きかけを行う。

●介助制度

◎インクルーシブ社会の実現に向けて、介助制度の拡充を求めていく。

◎新型コロナウイルス感染症の感染拡大により介護現場が体制崩壊を起こさないために、介助制度の柔軟な運用や、医療と福祉の連携を求めていく。

●交通・まちづくり

◎生活の中で障壁となる事例を集め、他団体とも協力して、国に声を届け、解決策を求めていく。
◎各種会議、研修等に、積極的に参画し、当事者の声を届ける。
◎学習会開催などを通して、アドバイザー、講師として活躍できる人材の育成を行う。

●福祉用具（補装具・日常生活用具）

◎自立生活に必要な機器が、適確、迅速、安価に入手できるよう求める。
◎福祉用具の適切な選択、使用方法を指導助言できるネットワークの構築を行う。
◎自立生活に必要な機器にかかる自己負担の地域格差解消に向けて準備する。

●医療関係

◎新型コロナウイルス感染症の感染拡大による医療体制崩壊の影響を受けないよう、医療と福祉（介助制度の柔軟な運用）の連携を求めていく。
◎高位頸髄損傷者に対する在宅医療支援制度および体制の充実化を求める。
◎医療的ケアの学習会を開催することで当事者と医療従事者との連携を深め、急性期や回復期から維持期の長期に及ぶ医療と訓練を一貫して提供する専門センターの設立を求める。
◎高齢者の受傷と高齢化によって高齢頸髄損傷者が増加していることから、地域での自立生活を維持していくため地域医療やクリニックにも専門的な認識と体制の充実を求める。

●住宅環境

◎バリアフリーに対応した公営住宅の整備を求める。
◎住宅整備・改修助成制度の改善を求める（助成費用を適正額にする）。
◎住宅改修についての専門知識を持つ人材のさらなる拡充を行う。

●所得保障・就労

◎安心して自立生活が送れるだけの障害年金、生活保護の支給額のアップを求める。
◎「在宅就労」の普及と定着、就労している頸髄損傷者の給与アップを求める。
◎日常生活動作の確立と職業訓練が専門的に行えるリハビリテーションセンターを各地域につくり、社会復帰（復職や就職）出来るまでの一連のプログラムの提供を求める。
◎学校教育に、若い頸髄損傷者が復学や進学して就職できるまでの「一貫した支援体制」の確立を求める。

●女性の権利

◎女性リーダーの育成を行う。
◎ジェンダーバランスへの取り組みを行う。
◎障害のある女性としての生きづらさと課題解決に向けた交流と参画を行う。
◎定期的な学習会を開催する。

令和3年度　全国頸髄損傷者連絡会　収支計算書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

収入の部

科目	金額
前期繰越	2, 145, 526
本部会費	56, 000
本部運営分担金	450, 000
寄付金等収入	342, 146
受取助成金	1, 550, 000
機関紙等売上代金	3, 646
受取利息	13
合計	4, 547, 331

支出の部

科目	金額
団体加盟費	73, 000
事務所使用料	180, 000
事務諸経費	15, 491
通信・発送費	118, 193
機関紙等印刷・編集費	392, 040
会議費	88, 512
頸損実態調査関連費	1, 568, 880
雑費	19, 386
次期繰越金	2, 091, 829
合計	4, 547, 331

上記のとおり報告します。

令和4年4月18日　　会計　　篠田　義人　印

令和3年度の会計について監査を執行し
収支は適正であり会計報告は正しく表示されていることを認めます。

令和4年4月18日　　会計監査　　三好 宏和　印

2022年度　全国頸髄損傷者連絡会　予算

（2022年4月1日～2023年3月31日）

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
前期繰越	2,091,829	団体加盟費	80,000
本部会費	45,000	事務所使用料	180,000
本部運営分担金	580,000	事務諸経費	50,000
寄付金等収入	650,000	通信・発送費	200,000
		機関誌等印刷・編集費	500,000
		会議費	160,000
		旅費交通費	400,000
		予備費	50,000
		次期繰越	1,746,829
	3,366,829		3,366,829

※オンラインでの活動を想定した予算では、万が一新型コロナウイルス感染症が収束した場合、補正予算が必要となるため、通常の活動（対面式での活動）を想定した予算として作成しています。

2022年度 本部役員・事務局体制

■本部役員

会　　長	鴨治 慎吾（東京）
副 会 長	八幡 孝雄（東京）
	村田 恵子（京都）
	米田 進一（兵庫 次期総会開催）
事務局長	宮野 秀樹（兵庫）
編 集 長	宮野 秀樹（兵庫）（兼任）
会　　計	三ツ井 真平（愛媛）
会計監査	三好 宏和（愛知）
相 談 役	今西 正義（東京）
	三戸呂 克美（兵庫）
	坂上 正司（兵庫）

■事務局員

事務局次長	鈴木 太（愛媛）
事務局長補佐	関根 彩香（本部）
事務局員	青山 和幸（岐阜・ホームページ担当）
	篠田 義人（岐阜・会計補佐＆ML 管理担当）
	島本 義信（大阪）
	井谷 重人（愛媛）
	毛利 公一（香川）

第 50 回全国総会・兵庫大会を開催するにあたり

～　兵庫支部設立 20 周年記念　姫路からぎょうさん元気を届けたい　～

兵庫頸髄損傷者連絡会　米田進一

◎はじめに

皆様、如何お過ごしでしょうか。2020 年から新型コロナウイルスが世界的な脅威として蔓延し、2 年余りが経ちました。当初は、数ヶ月くらいで事が収まると想像していただけに、これ程の時間がかかるとは想定外だったと思います。先の見えない状況に「いつまでこんな生活が続くのだろう？」と皆さんも思っている事は同じではないでしょうか。

来年は、記念すべき 50 回目の全国総会となります。兵庫支部が開催を担当する事に対し、喜びと共に、気の引き締まる想いでいます。また、偶然にも来年は兵庫支部設立 20 周年という大きな節目でもあります。私は来年、頸髄損傷になって 18 年、兵庫支部に所属して 16 年を迎えようとしています。これも偉大なる先輩方や周りの方々の手厚いご指導ご鞭撻のおかげであり、現在に至るまで活動して来られた事に大変感謝しております。

◎兵庫大会は 3 回目

2005 年に第 1 回目を舞子で開催し、2014 年に神戸で第 2 回目、9 年ぶりに第 3 回目を姫路で開催する予定にしています。

来る 2023 年 6 月 3 日(土)、4 日(日)の日程で、テーマや内容については未定ですが、現在、兵庫実行委員メンバーを組織して準備を進めているところです。詳細については、あらためてお知らせします。前回の神戸で培った経験を活かし、兵庫支部ならではの “おもてなし” を重視した大会にしたいと思っています。

姫路城としろまるひめ

◎姫路について

皆様もご存じと思われますが、世界遺産に指定されている「姫路城」が有名です。その他にも「好古園」、映画ラストサムライのロケ地である「書写山圓教寺」、「手柄山公園」、など数多くの観光地があります。

食べ物では「姫路おでん」、「アーモンドトースト」、「ひねぽん」、「御座候」、「揖保乃糸」等が有名で、変わり種として「おでんケーキ」もあります。

◎来年こそは

コロナ禍により、全国総会は、ここ 2 年はオンライン開催となってしまいました。直接皆様とお目にかかれていない事を寂しく感じています。来年こそは、コロナ感染者数も落ち着く事を願いつつ、この 2 年ほどで培った対策等を十二分に発揮出来るよう、実行委員メンバーと共に頑張って行く所存です。

◎最後に

一日も早くコロナが終息し、3 年前のような、当たり前に社会参加していたあの頃に戻れる日を切に願っていますので、来年は姫路でお目にかかりましょう！兵庫実行委員メンバー一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

We are waiting for you in Himeji

2022・5/28・5/29 DPI 全国集会

～「ついに迫る！障害者権利委員会第１回日本との建設的対話」～

副会長　村田　惠子

全体会報告

第一部　障害者差別解消法基本方針改定の状況
尾上浩二（DPI 日本会議副議長）

- 改正障害者差別解消法のポイントは、
  ①施行日は「3 年以内」とあるが、一日も早い実施が必要。
  ②国・地方自治体の連携協力については、ワンストップ専門相談窓口の設置がポイント。
  ③差別解消のための支援措置強化については、国・地方での相談人材の育成・確保、事例収集の体制が求められる。
  ④差別の定義、障害女性の複合差別解消等は、基本方針改正等に最大限反映させなければならない。
- 家族等関係者差別については基本方針に記載する必要がある。
- 差別を受けてもどこに相談をしたら良いかわからないのが現状。担当省庁へ繋げるワンストップ相談窓口が必要。

第二部　国連障害者権利委員会　第一回対日審査に向けて
対日審査に向けた日本政府の取組
１．富山未来仁（外務省総合外交政策局人権人道課長）

- 2014 年に日本は障害者権利条約を批准し、2016 年に初めて報告書を提出した。今年 8 月に第 1 回目の審査を受ける予定。
- 条約第 33 条に基づく、国内実施状況の監視の過程に関与する役割を担う機関として、障害者政策委員会も招待され、発言する。市民社会団体等は、オブザーバーとして出席・傍聴が可能。
- 今回の特徴は、新型コロナのために、政府報告が提出されてから、審査までの時間が長くなっている。コロナ禍で審査そのものが行われず、その後、オンライン審査、ようやく対面審査の再開となった。

「障害者の権利に関する条約の実施状況に係る障害者政策委員会の見解」について
２．石川准（内閣府障害者政策委員会委員長）

- 8 月の対日審査では、市民社会（障害者団体や NGO）は権利委員会に向けて、市民社会のブリーフィングという政府の報告とは別に、市民社会としての権利条約の実施状況を述べる機会がある。
- 政策委員会が独立した監視枠組みとして、初回報告以降の顕著な進展、顕著な懸念事項（施策が暗礁に乗り上げており、権利条約が求めることと異なる方向へ向かっているもの）を整理してまとめた。日本の障害者施策の課題を、権利委員が読んですぐに理解できるように明確に述べている。
- 総括所見が出されたら、現在、障害者政策委員会で第 5 次障害者基本計画の策定作業をしているところなので、活かせるものは、ぜひ活かしていきたい。
- 監視枠組みについては、政策委員会は、構造的に担保された独立性や、権限、裁量権ではなく、一審議会にすぎない。これをどうするかが今後の重要課題。

JDF の取り組みとパラレルレポートの主なポイント
３．崔栄繁（DPI 日本会議議長補佐）

- 2014 年の条約批准後の取組みは 5 つ。
  ①権利委員会への傍聴団の派遣、②2 つのパラレルレポートの提出、③重要課題の内部学習会、④日本政府との意見交換、⑤3 つめのリポートとして事前質問事項政府回答への JDF の意見の取りまとめ
- パラレルレポートの主な課題、19 条については、地域で暮らす権利や地域移行に関する法律の不在が問題であり、地域で暮らす権利を明記すべき。全ての精神障害者が地域移行できるよう、予算配分して、精神科病棟を削減し、実効性ある戦略を立ててほしい。24 条インクルーシブ教育については、障害者基本法、学校教育法、同施行令などを改正し、全ての学校、学級で合理的配慮提供ができるようにするべき。
- 独立した人権救済機関がまだないのは、非常に問題。立法府、議会や政府、司法から独立した人権機関の創設と監視体制を作るべき。

https://www.dpi-japan.org/blog/events/20220528-main-session/

地域生活分科会「今こそ本気の地域移行の仕組みを！～障害者総合支援法見直しへの提案～」
１．水流　源彦（NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク代表／社会福祉法人ゆうかり理事長）

- 「ゆうかり学園」の利用者を114名から40名に削減し地域移行を進めてきた。
- 保育園事業では障害の有無に関わらずインクルーシブ保育を実施している。
- 基幹相談支援センターが一般相談を受け、緊急対応を地域支援拠点が行う。
- 鹿児島市の基幹相談支援センターは原則、共同運営している60法人が順番に担当する方式を採用している。
- 地域側と施設側に地域移行支援コーディネーターを置くことが重要。

２．渡邉　琢、岡山　裕美（日本自立生活センター（JCIL））

- 京都における地域移行・脱施設化の取り組みや京都市施策推進協議会での施設入所者・待機者の意向調査を行うワーキンググループの立ち上げ経緯について報告。
- 2010年代後半からは京都市施策推進協議会の委員として、障害者福祉計画が医療モデルであるという点や地域移行・施設入所者数削減の目標値が記載されていないといった問題点を訴え続けた。
- その結果、施設入所者・待機者意向調査を行うワーキンググループが立ち上がった。

３．今村　登（DPI日本会議事務局次長）

- 現状として地域移行者よりも新規入所者、希望者の方が上回っているという長年続く傾向がある。
- 施設入所者全体は減っているものの理由としては死亡や他の施設に移るなど、高齢化や障害の重度化が原因。
- 法的な仕組みとして、地域移行コーディネーターや地域生活支援拠点を創設することや基盤整備のための基金を創設することなどを求めていく。

https://www.dpi-japan.org/blog/events/20220529-community-session/

雇用労働分科会「法定雇用率達成代行ビジネスの現状から障害者雇用の意義と課題を考える」

１．　松井　亮輔（法政大学名誉教授）

- 雇用率ビジネスは障害者権利条約第27条労働及び雇用の一般的意見にも抵触する。

２．藤尾　健二（NPO法人ワークス未来千葉、千葉障害者就業支援キャリアセンター長）

- 千葉県市原市に障害者雇用のコンサルティングを目的とし、企業向け貸農園を行っている会社があり、雇用率ビジネスの問題点を指摘した。

３．安藤　信哉（公益社団法人全国脊髄損傷者連合会事務局長、株式会社障碍社　代表取締役）

- これまでの取り組みと、中途で障害を持ち、そこからご自身の会社を起業に至った経緯などを話した。
- 現在、障害者就労事業等にも力を入れている。
- 藤尾さんが指摘した会社の見学をしたことがあり、同じように雇用率ビジネスに対して問題認識を持った。

https://www.dpi-japan.org/blog/events/20220529-labor-session/

障害女性分科会「北海道知的障害女性０歳児遺棄事件から考える－私たちの『性と生殖の権利』－」

１．佐々木　貞子（DPI常任委員・DPI女性障害者ネットワークメンバー）

- 障害女性は障害者差別と女性差別を重複して受けるため、その困難は掛け算的に増える。
- 複合差別は可視化されにくく、施策の谷間に置かれ放置されてきた。
- 障害女性は性のない存在とみなされる一方、性的存在として搾取されると言わざるを得ない。

２．長沖　暁子（SOSHIREN女（わたし）のからだから）

- 日本には世界と異なるリプロダクティブ・ライツの在り方と課題がある。
- 日本はジェンダーギャップ指数が156ヵ国中120位と低く男性中心社会が根強く存在している現状。
- それぞれが自分の意思で人生・性と生殖について決め、そのための情報と手段が持てる社会への変革が必要。

３．藤原　久美子（DPI常任委員・DPI女性障害者ネットワーク代表）

- 厚労省の障害者、障害のある女性への施策対応への具体的な姿勢が見えないことに対する緊急的な課題がある。
- 厚労省に、①障害女性のリプロに関わる福祉施設等職員への研修、②障害者が性教育を受ける権利、③相談できる環境の整備、④0歳児遺棄事件等についての調査、⑤再発防止に障害女性を参画させて取り組むことを要望した。

https://www.dpi-japan.org/blog/events/20220529-women-session/

To be yourself「電動車椅子」参加報告

愛知頸髄損傷者連絡会　近藤 佑次

4 月 9 日にオンライン開催された第 2 回「To be yourself 」電動車椅子に参加させていただきました。頸髄損傷者が直面する様々な課題について、参加者同士が自由に話し合い、情報提供・収集や課題解決を目指すこのセミナー。私も頸髄損傷者として普段電動車椅子で生活をしています。そろそろ新しい車椅子を作りたいと思っていたところでしたので、今回の電動車椅子という内容についてとても興味がありました。1 時間半のオンラインセミナーでは兵庫支部の宮野さん、愛媛支部の鈴木さんから話題提供があり、使用されている電動車椅子の特徴やこだわっている機能、補装具申請の経緯などを写真や動画を使ってわかりやすくお話しいただきました。その後、参加者からの発言もあり、あっという間の 1 時間半でした。

みなさんのお話を聞いて感じたことは、同じ頸髄損傷であるがゆえに、似たような課題があり、同じことを考えて車椅子の選定や改造をしているのだと改めて感じることができました。例えば話題提供者のお二人が、洗髪や洗面を気軽に行いたいという希望を持たれていることに対してとても共感できました。また、非常に高額な電動車椅子の補装具申請は自治体によって難航するケースがあり、間に入る車椅子業者選びも大切になるなど、補装具申請に対する壁に問題意識を抱いている方々がたくさんいることもわかりました。そして、補装具申請をスムーズに進めるためのテクニックに関しては、ディスカッションが非常に盛り上がっていたように思います。車椅子のメンテナンスについても話があり、取扱説明書を読み、介助者に指示を出して定期的にメンテナンスを行って故障を防止しているという話には驚きました。

私が受傷して電動車椅子を注文した時は、少ない情報の中で､業者にまかせっきりだったと思います。時間が経ち、今では生活も安定し必要な情報もインターネットで細かく調べられる環境になりました。今度は逆に、情報が多すぎて新しく電動車椅子を作ろうと考えた時に、迷うことも多くなるだろうと私は感じています。そんな時に今回のセミナーのように、実際に様々な電動車椅子を乗り継いできた経験のある方から話を聞けてとても参考になりました。また、参加された方々とも情報交換ができるので本当に貴重な場だと思います。今回のセミナーは興味を持たれている方が多く、たくさんの参加申し込みがあったと主催者の方がおっしゃっていました。そして電動車椅子についてのセミナーは今後も継続して行いたいともおっしゃっていました。確かに電動車椅子の話を一から十までするとなると 1 時間半では全く足りないと感じました。今回は普通型の電動車椅子についての話題が多かったので、私としては簡易型の電動車椅子についても話を広げて欲しいなと思いました。また電動車椅子についてセミナーがあれば、きっと新たな情報が得られるのだろうと開催を楽しみにしています。

第9回合同シンポジウム　開催報告

テーマ　障害当事者とコロナ禍を考える

全国頸髄損傷者連絡会　事務局次長　　鈴木　太

１．はじめに

2022年5月28日（土）、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会との合同開催により、第9回合同シンポジウムが開催されました。今回は未だに猛威を振るう新型コロナウイルスの現状報告ということで、テーマを「障害当事者とコロナ禍を考える」としました。最前線で新型コロナウイルスの患者を受け入れ治療に当たる看護師の都庁職病院支部書記長、都立駒込病院勤務、大利英昭氏に基調講演をいただき、障害当事者で新型コロナウイルスに罹患された、当会会員の宮野秀樹氏と橘祐貴氏に体験談を話していただきました。

２．最前線の病院では

治療に当たる病院では、今でこそ落ち着いてきましたが、当初の混乱した状況、オミクロン株流行時は医療が成り立たない状況の紹介がありました。現状乗り切ったように見えているかもしれないが、根本的な感染症への備えに不備があることや、都立病院としての役割の説明には直接関わる医療従事者からのお話とあって、多くのことを考えさせられる基調講演でした。

３．当事者からの発信

頸髄損傷者で新型コロナウイルスに罹患されたお二人のお話では、やはり介助者の確保に奔走された報告が印象的でした。

宮野氏は入院という話もあったそうですが主治医より抗体カクテル療法を実施し、運営に関わるヘルパー事業所があったことから、介助者の理解を得ながら最小限の介助体制を築き接触を減らし、自宅療養で療養期間を終えた紹介がありました。流行期の感染で、保健所はバタつき不安なこともあったそうですが、重症化リスクが高い情報は共有され、迅速なサポートが得られえたようでした。

橘氏も一人暮らしですが、感染が判明してからの手配は大変だったそうです。重症化リスクが高いことから入院の話で進んでいたが、自宅療養となりました。多くの事業所を利用されていたので、日常の介助体制を維持することは出来なかったそうです。濃厚接触者にあたる家族の協力があり、何とか乗り切ることが出来ましたが、今も残る不快感に不安が残っているそうです。

４．まとめ

ディスカッションが進む中、日頃からの主治医との関係を築く重要性、ヘルパー事業所との連携は欠かせないことを再認識しました。特に複数の福祉サービス事業所を利用する障害当事者には、感染しているにもかかわらず、各所への連絡・調整がつきまとい、ゆっくり療養するとはいかない現状には驚きでした。

重症化リスクが高く、医者が入院を勧めたいが入院できない状況は、医療崩壊ではないのかという問いかけには、今の感染症対策をどの様に日本が国として考えているかを真剣に考えるときなのだと感じました。今後の新たな感染症との戦いへどう備えていくのか、落ち着きを取り戻しつつある今、少しでも考えておきたいです。

５．新しい運営方法

今回の合同シンポジウムはオンライン開催で会費を集める初のシンポジウムとなりました。決済も銀行振込だけでなくクレジットカード決済を活用し、新しい形のシンポジウムを目指しました。今後、頸髄損傷者が自宅にいながらリアルな情報に気軽に触れられるよう、そして感染症とうまく付き合っていくためにもオンライン技術の活用方法を模索していきたいと思います。

To be yourself「介護リフト」報告

全国頸髄損傷者連絡会　宮野 秀樹

2022 年 7 月 16 日（土）に第 3 回 To be yourself「介護リフト」が開催されました。当会では「ノーリフト（抱え上げない介護）」を推奨し、介護者不足の現場を当事者自らが変えていく取り組みを行っています。日頃から道具を使って豊かな暮らしをしようと呼びかけていることもあって、今回のテーマである「介護リフト」は関心が高かったのか 18 名の参加があり、意見交換も大変盛り上がりました。

皆さんの意見で多かったのは、現在の「介護リフトの価格」が日常生活用具の給付費に見合っていない、何とかならないのか？ということでした。確かに、昔に比べると現在の介護リフトは性能が向上していると同時に価格も高くなっています。今後、介護リフトを導入しようとする頸髄損傷者が現れたとしても、値段の高さに躊躇する人が多いことが予測されます。当会としては、給付費が現在の介護リフトの価格に見合うよう、厚生労働省に給付費の改善を要望していきます。

介護リフトの使用状況と要望

大阪頸髄損傷者連絡会 会長　柏岡 翔太

〇いつから使っているか？

リフトの使用状況ですが、2006 年の 4 月にラグビーの練習中にケガをして入院し、11 月に退院をして在宅に戻って、そこから現在まで同じリフトを使用しております。ですから最新のリフトの状況が分かっていません。

〇どのメーカーのものを使っているか？

とりあえず現在使用しているリフトは、株式会社ミクニのマイティエース 2 というもので、ベッド設置式電動介護リフトです。スリングシートは、パラマウントベッドの脚分離型を使用しております。

〇どのような使い方をしているか？

まずベッドをフラットにして、身体を左右横に向けてスリングシートを背中に敷きます。脚分離型なので、一番上が肩の下辺りで、一番下は左右太ももの下を通してレッグストラップをクロスさせます。今になって思うことが、なぜ脚分離型なのかということで、ハイバックの頭まであるものもあるのにと調べていて思いました 笑。リフトのハンガーを下げて、フックにストラップをかけます。そこからハンガーを上げながら、首の下に腕を入れてもらって持ち上げつつ車椅子に移乗しております。

〇どのような要望があるか？

介護リフトへの要望ですが、リフトの本体からコードで繋がっているリモコンがワイヤレスになれば、移乗するときにコードがハンガーに引っかかったりしないだろうなと思います。希望を言いましたが YouTube でリフトの動画を見ていたら、リモコンがワイヤレスになっているリフトが出てきて「もうあるんかい！」とつっこんでしまいました。

あと、リフトの値段が僕からするといい値段なので、市町村の助成金などが気になるところです。退院をして自宅に帰ってきたころの精神状態と、未成年ということもあり、リフトの値段や助成金のことなど全然分からないまま退院をしたので、リフトの値段を知ったときは驚きました。

アウトドアにチャレンジ！

愛媛頸髄損傷者連絡会　宇高　竜二

頸髄受傷後、約 4 年間治療や静養のため病院や施設を転々とし､約 1 年間親元での生活を送りました。その後、地元を離れとなり町の山・川・海に囲まれた自然豊かな愛媛県西条市に移住して約 15 年が経ちました。

今まで、外出と言えば毎月 1 回の病院への定期受診以外はほとんど外出することがなかった自分が、自立生活センター星空と出会えたことで、生活の幅が広がりいろいろなことに挑戦できるようになりました。それと同時に、多方面で多職種の方たちとの繋がりも大きく広がり、毎日がハッピーな時間を満喫できています。

今回は、約 3 年前に大阪府岸和田市から西条市に移住され、アウトドアアクティビティーや産業ツーリズム等を展開する【東予人ーtoyo-jinー】代表の大須賀 一仁さんとの出会いから､地元の商店街を当事者でない方たちと一緒に、車椅子でチェアウォークすることで、一見平坦で通行しやすい道を歩いていると地元の方達の目線をかすかに感じながら、意外に滑ったり傾いたり、入りたい店を発見しても微妙な段差で入れそうで入れなかったり、普段あまり意識しないバリアに肌で直面したり、みんなが当事者のリアルを体験してもらうことで更に新しい発見ができました。

他にも､ポタリング※(目的地を特に定めることなく気分や体調に合わせて気の合う仲間と､近郊を｢散歩｣程度に軽くサイクリングすること)に挑戦し、自宅周辺の海エリアの約 4km を、のんびりと電動車椅子のペースでクロスバイクと潮風を浴びながら海岸線を黄昏ながら走りました。

そして、今までのいろいろな経験を活かした今回の一大イベントとして、前々からチャレンジしたかった、初挑戦のカヌーに乗って大海原に飛び出してみることです！

事前に、わたしの身体の残存機能や電動車椅子からカヌーへの移乗のことや、安全面などを一緒に企画してくれた大須賀さんと念入りに打ち合わせをしていたものの、初めての挑戦ということもあって、当日、実際にはぶっつけ本番の流れになりました（汗）満潮時の朝早くから、自宅近くの漁港へ集合しました。メンバーが､東予人ーtoyo-jinーの大須賀さんと、急遽の応援に駆けつけてくださった広島県尾道市向島のアウトフィッターdeep water の森さんとわたしとヘルパーさんの計 4 名で、カヌー2 艇とサップの計 3 艇。浮き桟橋上から 2 人乗りのカヌー前方へ移乗をし、体幹の安定しないわたしの身体を準備していたものを使用してどうにか安定さすことに成功！その後サポートしてくれた 3 人の息の合った共同作業で海面へ無事浮かぶことができました。20 年以上ぶりの波乗りは、最初は怖かったけど、時間と共に慣れてきて、いつしか海賊王になった気分でした。今後の課題は、座位の安定のためにシートの背もたれの改造などまだまだたくさんありますが、今年の夏か秋に再チャレンジし、誰でも楽しめる遊びにしていきたいと思います。

マリンアクティビティ体験報告

― 沖縄の海は楽しいさ～！ ―

全国頸髄損傷者連絡会　宮野 秀樹

沖縄県に移住して約 2 年が経ちました。移住してきたのがコロナ禍真っ只中だったこともあり、ほとんどアクティブには動けていませんでしたが、最近は周囲の感染状況を確認しつつ、感染予防に努めながら活動し始めています。

兵庫県の NPO の事業拡大を目的として、支店を出すべく沖縄県に出向してきたわけですが、重度障害者の自立支援や権利擁護活動だけではなく、「重度障害者の観光のサポート」も事業目的のひとつにしています。昔と違って、今は重度障害があっても旅行に行くことがそこまで難しいものではなくなりました。せっかく旅行に行けるのですから、そこにもうひとつ加えるとするなら、やはり「とことん楽しむ」ことではないでしょうか。どんなに障害が重くても「人生は素晴らしく、そして楽しい」を体現してもらいたいと考えています。「それは無理じゃないの？」と思うようなことに挑戦してほしいのです。かっこよく言えば「重度障害者の可能性の創出」を考えているわけです。

いきなり話は変わりますが、沖縄と言えば「海」ですよね！海と言えば「ナンパ」…違います、海と言えば「マリンスポーツ」でしょう。パラセーリングやジェットスキー、シュノーケリングやバナナボートなど、楽しいアクティビティがたくさんあります。しかし、どのアクティビティも重度障害者ができるとは思えないですよね？

今回、マリンアクティビティの体験する機会が得られたので、その報告をしたいと思います。ただ、結論から言うと、体験日当日の波の状態が悪かったため、体験は延期となりました。でも、いろいろと楽しんできましたので、その様子を報告します。

沖縄で友達になった、私と同じく県外からの移住者で糸満市に在住の車椅子トラベラー・三代達也さんに「マリンアクティビティを体験しませんか？」と声をかけてもらったのが約 2 ヶ月前。「美々ビーチいとまん」のマリンアクティビティを担当するスタッフと Zoom で打ち合わせを行いました。修学旅行で来られる障害がある学生や県外から観光で来られる重度障害者にも、安全にマリンアクティビティを体験してもらいたいというスタッフの思いと、「重度障害者にも楽しい沖縄と海を体験してほしい」という我々の考えが一致したので、ぜひ協力させていただきます！ということになりました。まずは我々がアクティビティを体験して、重度障害者がマリンアクティビティを安全に楽しむためには、どのようなサポートが必要かを、スタッフと一緒に検証することになりました。

一発目の体験アクティビティに選ばれたのは「ビックマーブル」。ソファータイプのボートで、ジェットスキーで引っ張り、遠心力で左右に振られながら海の上を駆け抜ける爽快感を味わう人気のアクティビティです。安全面でいうと左右に振られることがないバナナボートの方が、我々のような障害者に適しているということでしたが、そこは冒険王の頸損コンビ！オレたちに安全なんか関係ねぇ！（嘘です。安全第一です。）とばかりに、ビッグマーブルを選択することにしました。

マリンアクティビティを安全に体験するためには、「風」と「波」が重要なポイントになります。沖縄本島は南西の風を強く受けるらしく、糸満市のビーチはまさに南西の風をもろに受ける位置にあります。そして、波には満潮や干潮も関係しているということで、波があまり高くなくなる干潮時の凪（風が止み波が穏やかになること）を狙おうという話になりました。

そして、冒頭で申し上げた通り、当日は波が高く、ビッグマーブルがうしろにひっくり返る恐れがあっ

たため、アクティビティ体験は延期となりました。でも、そこでめげないのが冒険王。せっかくだからと、体験当日にどのような動きになるかシミュレーションをするため美々ビーチまで行き、ビッグマーブルへの移乗やチェアボートに乗って海水浴を楽しんできました！もとい、検証してきました。

砂浜と海の中を走行可能なチェアボート

マリンアクティビティのスタッフ＆介助者

青い空、青い海、最高に気持ちがいい！

やはり沖縄の海ですね！てぃーだかんかん、心地よい風も波のゆらぎも全てが最高！よくよく考えてみれば、海に入るのは 6 年前にフィリピン・セブ島以来、国内では初めてでした！

これがビックマーブルだ！

移乗用担架を使って搭乗します

実際に乗るとこんな感じになります

今回は延期となりましたが、すぐにまたチャレンジします。その様子はまた報告します。どうぞ楽しみにしていてくださいね！めんそ～れ～！

「美々ビーチいとまん」公式サイト

http://bibibeachitoman.com/

事務局からのお知らせ

全国頸髄損傷者連絡会事務局

○総会出席登録方法に関するお詫び

全国頸髄損傷者連絡会 2022 年度総会は、6 月 5 日（日）10:00～12:00 の日程で会員の皆様のご協力のもと無事終えることができました。ただ、総会への出席登録方法がわかりづらく、多くの会員に混乱を生じさせてしまいました。お詫び申し上げます。総会の開催要領として、参加希望者は総会出欠ハガキに「出席」と記載の上、返信いただき、あわせて、全国頸髄損傷者連絡会のホームページから総会参加申し込みフォームに登録、もしくは事務局メールアドレス「jaqoffice7@gmail.com」へ参加希望のメールを送る方法を採用しましたが、ハガキで「出席」としながら総会参加申し込みフォームやメールでの参加登録をいただけなかった会員が多数おられました。ハガキと参加申し込みフォームのダブル登録方式がわかりづらかったことが原因と考えております。あらためてお詫び申し上げます。今後、オンライン総会となった際は、参加登録方法を見直し、よりよい方法を採用したいと考えております。その際には、会員の皆様にご協力いただくことになります。どうかご理解くださいますようお願い申し上げます。

○新執行役員の就任について

全国頸髄損傷者連絡会 2022 年度総会にて、編集長に宮野秀樹氏（事務局長兼任）と会計に三ツ井真平氏が新たに選任されました。全国頸髄損傷者連絡会の活動発展のために努力してまいりますので、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

【就任のご挨拶】

6 月の総会を持ちまして会計に承認されました愛媛支部会員の三ツ井真平です。頸髄損傷 C4 の当事者で歳は 30 歳、日頃は CIL(自立生活センター)星空で活動させていただいています。

会計の仕事は初めてで至らない点も多くあるかもしれませんが、事務局始め皆様からご指導をいただきながら、精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○頸髄損傷者の排泄基礎調査報告書が完成しました

公益社団法人日本理学療法士協会からの助成を受け、2021 年 12 月 20 日から 2022 年 1 月 9 日にかけて「頸髄損傷者の排泄基礎調査」を実施し、研究者・協力者のご支援、ご協力を得て報告書を発行することができました。会員の皆様には、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。

本調査において、頸髄損傷者の排泄問題における課題が明確になりました。これらの問題を解決するためにも、この調査報告書の内容を頸髄損傷者だけではなく、家族や医療従事者、支援者、そして介助サービスを行う事業所の関係者にも周知したいと考えております。

頸髄損傷者の排泄基礎調査報告書は、PDF 版が全国頸髄損傷者連絡会のホームページからダウンロードできるようになっております。排泄に様々な悩みを持っていて、それを解決することによって、より豊かに自分らしく生きることができるのだと思います。我々頸髄損傷者の生活をよくするために、ご自分がお住まいの自治体行政機関や関連する機関、リハビリセンターや病院、頸髄損傷者を支援してくださる関係者に配布くださいますようお願いいたします。

全国総会で「頸髄損傷者の排泄基礎調査」の報告を行いましたが、あらためて「頸髄損傷者の排泄基礎調査報告会」の開催を検討しております。詳細は決まり次第お知らせいたします。

書評　「頸髄損傷者の排泄基礎調査」報告書

神奈川県総合リハビリテーションセンター　村田 知之

冒頭、鴨治会長の言葉に「排泄をいつ、だれが、どこで、どうやって行っているか？失禁があったときどうやって処理するのか？」、そして「この実態をどれだけの方が知っているのでしょうか？」との問いがありました。

私自身、所属している病院で頸髄損傷者の住環境整備等に携わることがあります。その際に、看護師や理学療法士、作業療法士といった医療職から排泄状況を聞く機会があるため、この言葉を気にも留めないで、報告書を読み進めていました。しかし、この報告書に掲載されている排泄の現状や事例報告、そして頸髄損傷者 129 名を対象としたアンケート調査の結果を読み終えた今、私は頸髄損傷者の排泄について、その一時の場面しかみていなかったことに気づかされました。

この報告書では、頸髄損傷者の排泄方法とその選択に至る背景が、事例等を通じて細かく掲載されています。日々の生活や季節の流れ、時間の経過によって変化する住環境や家族・支援者、ライフスタイル、価値といった視点は、排泄や生活の選択肢を広げるためにも重要な情報となります。頸髄損傷者それぞれが「自分らしく生きる」を実現するためにも頸髄損傷者やその家族、病院や訪問看護サービス等に携わる医療職、ホームヘルパー、そして障害者福祉に携わる行政の担当者など、生活支援に携わる多くの方々とこれらの情報を共有したいと感じました。

今回、最も衝撃を受けたのは、アンケート調査項目である「排泄の問題によりあきらめていることはありますか。」の質問に対して、64%の方が「ある」と回答していたことです。その中には、外出や外泊を諦めていることや不安を感じていることが述べられていました。しかし、裏を返せば 36%の方は、あきらめていることは「ない」と回答していることになります。このことは、障害が重くても社会の一員として普通に、あたりまえに生きていることを示している結果だと感じました。

今回の調査は、全国頸髄損傷者連絡会などに所属する頸髄損傷者を対象に行われています。この全国頸髄損傷者連絡会は頸髄損傷者当事者によって 1973 年に発足され、「障害が重いからという理由で、自由が制約されたり、未来に希望を失うようなことがあってはならない」との考えを掲げており、情報提供や親睦交流、行政交渉といった活動を通じて、頸髄損傷者のネットワークの確立、関連分野との連携活動、医療・福祉支援体制の整備を目指している団体です。これまで頸髄損傷者に対して、自立生活と社会参加の実情とその障壁の把握を目的とした大規模な調査を 3 回（1991 年、2010 年、2020 年）実施していますが、今回の調査では、排泄に着目し問題や課題を明確にしています。

この報告書を読んだだけでは、排泄の実態の全てを知ることはできません。しかし、それぞれが感じることや気づくことがあれば、さらに広い視野で排泄の実態をみることができると思います。だからこそ、この報告書に出会っていない多くの方々に、この情報を届けなくてはなりません。この報告書は、読者一人一人が情報発信のキーパーソンとなるためのきっかけだと思います。

是非、「頸髄損傷者の排泄基礎調査」報告書をご一読ください。

施設紹介

別府重度障害者センターについて

当センターは大分県別府市にある、主に頸髄損傷者に対するリハビリを行う障害者支援施設です。主に回復期病院等から在宅生活へ移行するまでの間に、リハビリを継続したいという方等が利用されています。また、病院から在宅生活等に移行後、当センターを利用される方もいます。

〇自立訓練（機能訓練）：頸髄損傷などの障害を持った方に対して、その方の機能レベルに合わせた日常生活動作の獲得等を目指します。評価期間中に身体機能等の評価を行い、将来の生活についての具体的な要望を本人（利用者）や家族に確認します。その結果を基に、個別の支援計画を立案し、本人の了解のもと、支援を開始します。定期的に訓練の進捗状況や、本人の意向等を確認し、目標の変更があれば、支援計画を見直しています。一般的な訓練期間はおおよそ１年から１年半程度です。この間、センターで生活しながら訓練を行い、在宅生活への準備を整えていきます。

在宅生活を始めるにあたり、訓練の進捗をみながら住宅改修等を行い、獲得した動作が自宅でも行えるように環境を整えます。その上で、在宅生活に向けて家族や地域の支援者と相談を進めますが、口頭や書面での説明では詳細な点まで伝わらず、地域に戻ってから家族や支援者が戸惑うこともあります。そのため、終了後の在宅生活で必要な支援が家族にしっかり伝わるよう､家族がセンターに来所して本人と一緒に過ごし、職員の指導のもとで必要な介助方法などを学ぶ介護等体験を実施しています。また、地域の支援機関とも事前に十分な打ち合わせを行い、本人に必要な在宅サービスを調整します。住宅改修後に本人が自宅で試験外泊を行い、センターで獲得した動作が自宅でもできていること、家族が介護等体験で学んだ知識や技術が活かされることを確認します。この際に地域の支援機関と顔合わせを行うこともあります。試験外泊後にセンターへ戻り、在宅生活に向けた動作の見直しを行うこともあります。

〇就労移行支援：令和２年度から就労を目指す方の支援も始まりました。主に自立訓練を終了した方を対象に、パソコンを使った技能習得と、就職活動や安定した就労生活を送るための就労準備訓練を行い、就労を目指します。就労経験の有無や在宅サービスの必要性など、本人の状況に応じた就労の形を目指すため、ここでも評価を行い、個別で支援計画を立案します。センター内での支援が一定程度まで進んだ後に行う企業への見学や実習は、本人の就労イメージを形作るのにとても有効です。また、就職はご縁ですので、早い段階で本人が就労を希望する地域の支援機関とも連携し、具体的な就職先を探していきます。就職先候補を見つけ、見学や実習などで職場の方にも本人の状態をきちんと理解してもらい、また本人も職場の雰囲気に慣れることで、双方が不安なく就職し、就労生活が長く続けられるように支援をしています。

当センターでは多くの頸髄損傷者が生活をしているため、同じような障害を持つ方と知り合い、交流する中で自身の障害を見つめ直し、将来の生活を前向きにとらえるようになったという方も少なくありません。病院から地域生活に戻る前に、当センターのような環境で生活することもプラスになると考えています。見学も随時受け付けています。興味を持たれた方はお気軽にお問い合わせ下さい。

電話　0977-21-1082（支援課直通）　E-mail　soudan-beppu@mhlw.go.jp

40 代で介護保険制度へ移行？

～　全国頸髄損傷者連絡会では情報を集めています　～

全国頸髄損傷者連絡会　事務局次長　　鈴木　太

１．はじめに

私は頸髄 4・5 番損傷の頸髄損傷者です。人口 8 万程度の公共交通機関がそれほど発達していない田舎町で障害福祉サービスを利用しながら生活を送っています。

先日、福祉サービスを提供する事業所を通じて「40 代の頸髄損傷者ですが、介護保険サービスを利用していて、サービスがうまく回らず生活が出来ません。みなさんは、どんなサービスを利用され生活なさっているのですか？」という問い合わせがありました。

詳しく聞くと同じ市内在住で、頸髄 5 番損傷程度の障害、上肢・下肢機能全廃という身体状況でした。

２．介護保険への移行とは

65 歳になるまで多くの障害者は障害者総合支援法による様々な障害福祉サービスを利用して生活を行っています。しかし、65 歳になると介護保険制度が優先され、障害福祉サービスから介護保険へ切り替わっていきます。

当会でも幾度となく取り上げてきましたが、介護保険は要介護認定によりサービス利用に上限があり、制約が多い特徴があります。利用できるサービスは日常生活に必要な支援のみで、外出や見守りといったサービスは利用が出来ません。

同じ居宅介護サービスですが、障害福祉サービスと全く同じ生活を、介護保険サービスのみで組み立てることは出来ません。

３．なぜ 40 代で介護保険利用？

この方はまだ 40 代です。聞ける範囲での事情を伺いました。

受傷後、在宅での生活を開始するにあたり、入院していた病院のケースワーカーによる聞き取りがあったそうです。食事・排泄・入浴・活動･･･、当市の福祉サービスと照らし合わせて、それらを利用するためには介護保険へ移行し、介護保険サービスを提供する事業所のサービスを利用することが欠かせない、ということになったのだとか。障害当事者にとっては受傷後間もないことで、状況も分からず周りに任せるしかなかったそうです。

４．大いに疑問の残る判断

現在、この様な 65 歳未満で支援者の知識不足から特定のサービス利用目的に介護保険へ移行し、介護保険サービスのみでは生活が成り立たないケースが増えてきています。

この件も、自宅での入浴は難しいという判断から「設備の整っている高齢者施設を利用しよう。」→「利用できるのは介護保険利用者。」→「介護保険へ移行すればこの施設で入浴が出来る。」という、大いに疑問が残る判断があったようです。

５．問題打開に向けて

この問題は、単に「判断が悪かった」で締めくくれる問題ではありません。頸髄を損傷し、不慣れな身体となり正常な判断が出来づらい時期に、人生の大きな決断を迫られるのです。

みなさまの地域でも、今回紹介したような事例が存在しているかもしれません。当会が取り上げてきた 65 歳問題と共にこの問題を共有し、今後是正に向けた動きへ繋げていきたいと考えています。

そこで、介護保険移行のトラブルを、全国頸髄損傷者連絡会では集めたいと思います。以下の連絡先へ介護保険にまつわるトラブルをお寄せください。ご協力くださいますようお願いいたします。

連絡先　全国頸髄損傷者連絡会・本部
TEL 079-555-6022
e-mail：jaqoffice7@gmail.com

「福島頸損友の会」紹介及び活動報告

「福島頸損友の会」代表　相山　敏子

◆「友の会」紹介

2008 年 7 月 19 日、全国の仲間たちの力を借りて、たった 6 名のメンバーで「福島頸損友の会」が発足してからもう 14 年が経つ。当初は、頸損仲間たちとは勿論、その関係者等々たくさんの方々と繋がりを持ちたい。広げていきたい。情報を共有したり、相談したり、地域で生きる力、知識を深めたい、という思いが強かった。

少しずつ仲間も増えて、ご家族と一緒に顔合わせもできた。そして、東京、神奈川、栃木、福島の「4 都県合同交流会」も開催されるようになったのだが、2011 年 3 月、「東日本大震災」が発生した。掛け替えのない仲間を二人失い、それぞれ大きな苦難を強いられ、先の見えない不安と恐怖の中でもう「友の会」は存続できないと覚悟した。

ホームページの入会案内はその時に閉じたままである。そんな私たちの背中を前に押し出すように、全国各地、4 都県に加えて兵庫・大阪・京都・愛知・岐阜・静岡から 65 名もの仲間たちが被災地・福島に集まって来てくれた。震災翌年に「第 3 回全国拡大合同交流会」を開催することができたのである。更に 2 年後には、「はがき通信」の懇親会とコラボする形で「第 5 回 4 都県合同交流会」も開催された。この時は、被災地視察及び仮設住宅の方々との交流という、私たちにとっては 2 日間にわたる大々的なものであった。仮設住宅で不自由な生活を強いられていた仲間の生の声を全国に発信することもできた。こうしてみんなに盛り上げて貰い、奮い立たせて貰ったお陰で「友の会」はまだ継続している。振り返ると、誰もが大変な時こそ「友の会」は必要なのかも知れないと教えられたような気がする。

◆活動報告

現在、私たち福島頸損友の会メンバー（頸友）は 15 名、何故か広い県内の四方に散らばっているので集まることがなかなか難しい。未だ直接会ったことがない方もいる。深刻なヘルパー不足も加わって外出困難な現状もあり、外での活動らしい活動は殆どできずにいる。唯一、毎年恒例となった「4 都県合同交流会」（10 月頃に開催）の場が私たちにとっても久しぶりに顔を合わせることのできる貴重な機会となっている。

コロナ禍のここ数年はオンラインでの活動が増えてきたため、全国主催の会議や交流会等に私たちも参加しやすくなってきた。その他には、全国各地の頸損仲間たちや関係者等からの情報提供、アンケート調査協力、イベント案内や仲間内の連絡などはホームページやメールで、また年に 3 回、全国頸損連本部から機関誌「頸損」を届けて貰い、各メンバーに郵送している。

私たち「友の会」はメンバー一人一人が凄い！といつも私は自慢してしまう。それぞれが地元でしっかりと自分らしく活動している。とりわけ活躍が目立つのは「障がい者の旅行を考える会」を立ち上げた佐藤さんでしょうか。一年中、国内外を旅行している。（詳しくは機関誌 130 号・131 号に掲載）　そして、水彩画を描かれている渡部さん、絵てがみを描かれている豊田さんなど、共に絵画展を開いたりしているが、できるだけホームページでも紹介している。スマホ専用サイト「趣味の絵画展示室」も紹介しているので、ホームページをご訪問いただけると有り難い。

「福島頸損友の会」ホームページ

http://fukushima-keitomo.site/

現在、東北には頸髄損傷者の団体は見当たらない。ホームページを探して、藁にも縋る思いでご連絡をくださる方もいる。受傷して間もないという方のご家族が多いが、長年異常疼痛に苦しまれているご本人や頸損者への対応に苦慮されている介護者、時には医療関係者からの問い合わせもある。頸損の患者がそれだけ少ないということだろう。以前に交流会でも話題になったのだが、受け入れ可能なリハビリ専門の病院もかなり少ない。このようなご連絡を受けた時はいつも仲間たちからアドバイスを貰い、私自身の言葉も含めて全てお伝えするようにしている。足りない時には全国の仲間にもお聞きする。私たち「友の会」は、全国頸髄損傷者連絡会の福島地区窓口だけでなく東北全域の窓口としてできるだけの対応をしたいと思っている。

頸損解体新書 2020・調査報告書作成を終えて

―　実行委員会メンバーからのメッセージ　―

昨年 6 月に「頸損解体新書 2020－自分らしくあるために－」が完成し、約 4 年という長きに渡り行ってきた「頸髄損傷者の自立生活を社会参加に関する実態調査 2020」事業を終え、本年 3 月 20 日をもって、アンケート調査票作成からアンケート調査の実施、調査結果をまとめた最終報告書の作成、最終報告書をもとにした報告会の実施までを行うために組織した「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査 2020」実行委員会を解散しました。この実行委員会には、頸髄損傷者をはじめとして、リハビリテーション工学研究者、福祉機器メーカー社員などの専門家が加わり、現在の頸髄損傷者の自立生活と社会参加の実情を把握し、自立生活と社会参加を促進する上で必要な社会的支援のあり方を示すために、多くの意見を交わし、議論を積み重ねました。実態調査から最終報告書発刊までの道のりはとても大変でした。大変な時間と労力を費やして完成した「頸損解体新書 2020」ですが、この実態調査ではできなかったことややり残したこともあります。次に引き継ぐためにも、実行委員会メンバーからのメッセージを連載方式で掲載します。（宮野秀樹）

頸損解体新書 2020 の作成に携わって

大阪頸髄損傷者連絡会　　島本　義信

頸損解体新書 2020 に関わったのは、2019 年末頃のプレアンケートへ回答して設問内容のチェックへの協力からで、気づいた時には実行委員会のメンバーになっていました。思い返せば頸損連絡会と出会った翌年ぐらいに、頸損解体新書 2010 のアンケートに回答をして完成した冊子を読み、個性豊かに生きている仲間の姿や頸損者が豊かに生きるために必要な情報があり、熟読することで頸損連絡会の活動を知るきっかけになりました。

調査報告で私が携わったのは高齢障害者と住環境でした。高齢障害者では 2016 年に介護保険の調査を一緒にしていただいた研究者の方とで、前回と同じように今回もアンケートの分析結果とは違った思いばかり伝えてしまい、まとめるのに苦労をかけてしまったと今になって反省しきりですが、今後の課題として残していただけて良かったと感じています。住環境では建築設計を生業としていたので、分析結果に興味を持ちすぎて「あれも、これも」と追加のクロス集計を増やしていただいたことでその後の調整とまとめには苦労をかけてしまいました。

私自身にとっては、コロナ禍でのリモート会議に、超アナログ人間の私が参加できるようになれたのは大きな変化でした。また実行委員会に参加した経験を、どんな形になるのかまだわかりませんが、これからの活動につなげていきたいと思います。ここから、2020 年度版を活用していくことと、2030 年に向けて身近な調査を継続することで、新たな人材の発掘や輪を広げることの大切さを感じます。10 年後は後期高齢者の仲間入りをしているので今回で引退かなぁ。でも、高齢障害者としてアンケートには回答しますよ～！

コロナ禍で行われた実行委員会

神戸学院大学　糟谷 佐紀

前回の報告書をヨレヨレになるまで熟読し、保存用にもう 1 冊購入した私を、今回の実行委員会のメンバーに入れていただき、報告書に携わる機会を与えてくださったことに深謝します。

2018 年に厚木で行われた第 33 回リハ工学カンファレンスのランチタイム、キッチンカーの前で今回の調査・報告書の話を聞いたことを覚えています。前回の実行委員会では、白熱した議論が繰り広げられたと聞き、委員となることに多少の不安はありました。しかし、今回は、特に激しく議論を戦わせる場面はなかったように思います。「決定権は頸損連にあり、リハ工チームはサポートに徹する」を確認しながら進められたことが大きかったと思います。途中、アンケート項目が増えて、私の担当であった住宅関連の項目を削減することにしました。いま思えば、そこは議論を戦わせてでも頑張るべきでした。削減した項目は、「築年数（建設年）」と「建て方（平屋、集合住宅など）」でした。この項目がないために、受傷後に転居した住宅は新築か中古か、一戸建てか集合住宅か、住戸洗濯時に避難想定はあったか、などを明らかにできませんでした。次回調査時には検討していただきたいと思います。

厚木のカンファレンスから、まだ 4 年しか経過していませんが、その後、社会は大きく変化し、今では遠い過去のようです。2018 年 10 月にキックオフミーティングを行い、実行委員会（最初は準備委員会）がはじまりました。遠方に暮らす委員の会議への出席が困難となりオンライン（当初は Google の Hangouts（現・Google Meet）を使用）と対面での会議を行いました（まだハイブリッド会議という名称を、ほとんどの人が知る以前のことです）。アンケート調査開始直前の会議を 2020 年 2 月に行った直後、新型コロナウイルス感染拡大防止による県外移動の自粛がはじまり、その後、中間報告会、報告書完成、報告会、そして打ち上げまで、すべてオンラインとなりました。オンライン会議は、移動困難者にとって有効なツールです。しかし、対面で会ったことのあるメンバーでなければ、深い議論は難しいと思います。今回の調査の実施、報告書の完成は、頸損連メンバーによる実行委員会以外での話し合いのおかげです。

次の調査が行われる頃には、社会はどのようになっているでしょうか。皆が自分らしくあると思える社会となっていることを願ってやみません。

書 籍 紹 介

交通事故、労働災害、転倒・転落……
患者が知っておくべき脊髄損傷リハビリ

出版社 ： 幻冬舎（2022/3/22）
販売価格：1650 円（税込）
著者名：柴田元

専門性の高いリハビリで
脊髄損傷後でも社会復帰は叶う――
専門医の選び方、リハビリ施設の活用法、公的支援制度の申請法……
身体機能を回復し社会復帰するために知っておきたい基礎知識

お役立ち！？

全国頸髄損傷者連絡会　鴨治　慎吾

頸損だからといって、着やすいから、着させやすいから着るのではなく、着たいモノを着たいですね！
もっとおしゃれを楽しむために服の加工やグッズなどをしてくれるサイトを集めてみました。

◎キヤスク

https://kiyasuku.com/

キヤスクは、身体の不自由に合わせて
既製服を着やすくするお直しを、気軽に、
気やすく依頼できるオンラインサービスです。

お直し依頼の流れ
1. お直しを依頼したい服を準備する
2. 依頼したいお直しを選ぶ
3. お直しを担当するキャストを選ぶ
4. キャストと詳細を打ち合わせする
5. お直しする服をキャストに送る
6. キャストがお直しをする
7. お直しされた服が戻ってくる

詳しくは、キヤスクのHPをご覧ください。
質問に関しても､キヤスクのHPのお問い合わせからお願いします。

◎服づくり工房 Mトワル

https://mt.cutewdress.com/

誰でも装うファッションの楽しみを忘れることなく【着る】ことを続けるためにあらゆる状況のファッションの楽しみ方とその方法を根本から考えました。とりわけ障害のある方にとってファッションは非常に重要。ファッション優先の日常着　晴れの日の勝負服　それぞれの現場でより使いやすく　さらに着る側のおしゃれ　楽しみ　快適さを追求し改善したデザインで製作しています。

・メールでのお問い合わせ
wedding@cutewdress.com
・お電話でのお問い合わせ
050－3578－2929
9：00～21：00（休日　水）不在の場合折り返しご連絡いたします。留守番電話にお名前をお残しください。

詳しくは服づくり工房 Mトワルの HP をご覧ください。

◎ズービッツ
https://zubitsjapan.com/

・簡単に靴を履くことができます
・強力マグネットの力で瞬時にひもを止めることができます
・解ける靴ひもに悩まされることもなくなります
・手を使わずに靴を脱ぐことが出来ます
・長く使えます(一足に限らず付け替えれば何足にでも半永久的に繰り返し使えます)
・完全防水です。
価格
　Mサイズ4,000円
　Lサイズ4,500円

株式会社Zubits Japan
153-0063　東京都目黒区目黒2－11－3
印刷工場1階Impact HUB Tokyo
お問合せは、HP内にあります。
詳しくは、HPをご覧ください。

◎ナイキ ゴー フライイーズ
https://www.nike.com/jp/

シューレースなしで出かけよう。簡単に着脱できる、Nikeの画期的なFlyEaseテクノロジーを使用したシューズ。 ヒールが回転軸で開き、完全にハンズフリーで着脱できます。体の動きが制限されている人や、よりすばやく出かけたい人に最適です。
カラーは3種類
価格：14,300円（税込）

お問合せ
0120-6453-77
9:00～18:00 月曜～日曜日
NRC・NTC（会員）：9:00～18:00 月曜～金曜日
※番号非通知のお電話には対応できません。
チャットあります。
詳しくは、HPをご覧ください。

障害者だから、車椅子だからといっても着たいモノを着たいし、履きたいモノを履きたいですよね！
他にも色々なアイテムやグッズや情報があると思います。
是非、良き情報がありましたら、事務局までご連絡ください。

報道・情報ピックアップ

伊勢新聞 5/22(日) 8:00 配信

車いす補助具で坂道走行　災害時避難想定、南伊勢町と鳥羽で実地調査　三重

【度会郡】明治国際医療大学（京都府南丹市）で救急救命学を研究する諫山憲司教授（52）の研究チームらが 20 日から 21 日にかけて、三重県の南伊勢町や鳥羽市内でけん引式の車いす補助装置「JINRIKI」を使った実地調査に臨んだ。

JINRIKI は、長野県箕輪町に本社と工場を置く同名会社が開発した着脱式の車いす用補助器具。車いすの前部に 2 本の専用ポールを装着し、テコの力を使って前輪を持ち上げることで介助者が強い力を使わなくても悪路や段差を走行できるという。

諫山教授のチームは、大阪ガスグループ福祉財団の助成を受けた研究活動の一環として、ユニバーサル社会実現の観点から同器具の有用性について調査。NPO 伊勢志摩バリアフリーツアーセンターの協力で、南伊勢町と鳥羽市の施設 4 カ所で災害時の避難を想定して階段や坂道などでの利用状況を調査した。

南伊勢町五ケ所浦の町役場南勢庁舎では、開発者の中村正善社長（64）が同席し、同町防災安全課の職員などの協力を得ながら津波の一次避難場所に向かう坂道などで使用を確認した。

自身も車いすを利用する立場として参加した、障害者アドバイザーの中村真幸さん（35）は「段差が多い地域なのであれば便利と思う。利用が広がってくれたらうれしい」と話していた。

福祉新聞 6/1(水) 10:10 配信

補助犬推進議連がシンポジウム　認知度低く、同伴拒否も増加

身体障害者補助犬を推進する議員の会（尾辻秀久会長）は 5 月 20 日、身体障害者補助犬法の成立から 20 年となることを記念したシンポジウムを衆議院第 1 議員会館で開いた。

議員の会幹事長の田村憲久・元厚生労働大臣は開会にあたり「医療機関での補助犬同伴拒否が以前よりも増えているという報告を受けた。法の成立から 20 年もたっているのにショックだ。しっかり啓発していかなければならない」と話した。

1996 年から介助犬シンシアと暮らしていた木村佳友さん（兵庫県）は、シンシアと電車に乗る際に鉄道会社ごとに試験を受けて負担がかかり、法の必要性を感じたと回想。

現在は補助犬学会理事の高柳友子医師とともに国会議員に働き掛けて成立にこぎつけたことを振り返り、「これで自由に外出できると思ったが、20 年たっても認知度が低い。これからも頑張らないといけない」と語った。

補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）の同伴拒否を禁じた補助犬法は、議員立法によって 2002 年 5 月 22 日に成立。07 年 11 月には補助犬トラブルに関する相談窓口の設置を柱とした改正法が成立した。

受け入れを拒否した施設に罰則はない。補助犬法を所管する厚生労働省によると、現在の稼働数は盲導犬が 848 頭、介助犬が 60 頭、聴導犬が 63 頭。いずれも 18 年ごろを境に減っている。

乗りものニュース 6/9(木) 10:12配信

障がい者手帳いちいち見せずに“割引差額分ポイント還元”「はやかけん」新制度で負担軽減へ

いったん払って、あとからポイント還元

福岡市交通局は2022年6月7日（火）、福岡市営地下鉄における障がい児向け「小児はやかけん」の新たなポイント制度を7月1日から始めると発表しました。

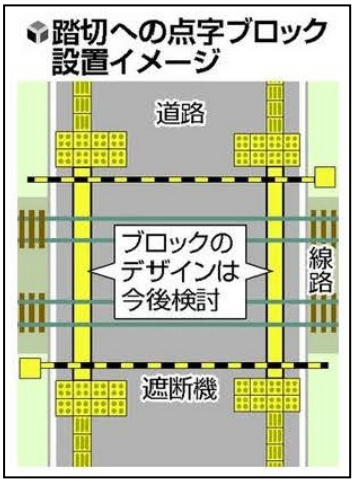
事前登録した小児はやかけんについて、小児料金と障がい者割引適用後の料金の差額を翌月にポイントで付与するというもの。駅券売機などでチャージしたポイントは、地下鉄の乗車や電子マネーでの買い物に利用できます。「いったんは小児料金を支払っていただきますが、割引料金との差額をポイント付与するため、実質的な負担は変わりません」とのこと。

これまで障がい児が割引料金で地下鉄を利用する場合、そのたびに駅員へ障がい者手帳を見せる必要があり、本人や保護者に大きな負担になっていたといいます。割引相当分をポイント還元とすることで、その手間を省きます。

対象になるのは身体障害者手帳（1～6級）、療育手帳（A1～A3、B1～B2）、精神障害者保健福祉手帳（1～3級）を持つ障がい児（小学生以下）。事前登録は電子申請（6月15日から）もしくは郵送で受け付けます。ポイントは、その月の利用分を、翌月10日に付与します。　（乗りものニュース編集部）

朝日新聞デジタル 6/10(金) 8:30配信

踏切にも点字ブロックを　全盲女性の死亡事故受け、国交省が指針改定



奈良県大和郡山市の踏切で全盲の女性が電車にはねられて死亡した事故を受け、国土交通省は9日、道路のバリアフリーに関する指針を改定した。踏切手前と踏切内の点字ブロックについて設置を促す内容で、道路を管理する全国の自治体に同日、通知を出した。

事故は4月25日に発生。国交省によると、事故があった踏切の手前には点字ブロックが設置されていたが、劣化していたという。女性が踏切の外側にいると誤認していた可能性があり、視覚障害者団体などから意見を聞き、対策を検討していた。

バリアフリー法に基づく指針は点字ブロックが必要な場所について定めているが、これまでは踏切について記載がなかった。実際、大半の踏切で内側にはブロックが設置されていないという。

時事通信 6/17(金) 20:14配信

週20時間未満の労働も算定　障害者の雇用率、対象拡大　厚労省

労働政策審議会（厚生労働相の諮問機関）の分科会は17日、障害者雇用促進に向けた意見書を取りまとめた。

従業員数が一定以上の企業が雇用しなければならない障害者の割合を示す雇用率について、週の所定労働時間が20時間未満の障害者も特例として算定対象に加える。健康上の理由から短時間勤務を望む障害者が一定数おり、就労機会の拡大を図る。

全国頸損連絡会＆関係団体“年間予定”

（２０２２年８月～２０２３年７月）

事務局

年間予定は、新型コロナウイルスの影響により、変更される可能性があります
詳しくは主催者にご確認ください

［２０２２］

８月２０～２１日（土～日）	第３６回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部	（オンライン）
９月１～２日（土～日）	第２５回日本福祉のまちづくり学会全国大会	（オンライン）
９月４日（日）	全国代表者会議（秋）	（オンライン）
９月１７日（土）	九州支部・観光プラン検討・構築ワークショップ①	（大分県）
９月２５日（日）	兵庫支部・バーベキュー大会	（兵庫県・明石市大蔵海岸）
１０月５～７日（水～金）	第４９回ＨＣＲ国際福祉機器展	（東京ビッグサイト）
１０月１１日（火）	２０２２年度・省庁交渉	（オンライン）
１０月１５日（土）	To be yourself「就労」	（オンライン）
１０月１６日（日）	香川支部・バーベキュー交流会	（香川県・まんのう公園）
１０月２２日（土）	九州支部・観光プラン検討・構築ワークショップ②	（大分県）
１０月２２日（土）	Walk Again 2022	（東京都・日本橋ライフサイエンスハブ）
１０月２９日（土）	４都県合同交流会（福島担当）	（オンライン）
１１月６日（日）	四国頸損の集い２０２２	（場所未定）
１１月６日（日）	リハ工学協会・関西支部セミナー「電動車椅子製作における地域格差について」	（兵庫県神戸市）
１１月１８～１９日（金～土）	高知ふくし機器展	（高知県・高知ぢばさんセンター）
１１月１９日（土）	九州支部・車椅子マラソン観戦ツアー	（大分県別府市）
１１月２８～３０日（月～水）	ニーズ・シーズマッチング交流会２０２２	（大阪府・OMM）
１２月１４～１６日（水～金）	ニーズ・シーズマッチング交流会２０２２	（東京都港区）
１２月１８日（日）	兵庫支部・忘年会	（兵庫県神戸市・ミュンヘン神戸大使館）

［２０２３］

１月１５日（日）	香川支部・新年会	（場所未定）
１月１５日（日）	大阪支部・新年会	（場所未定）
１月２１日（土）	九州支部・駅地下グルメ	（大分県別府市）
４月１９～２１日（水～金）	バリアフリー２０２３福祉機器展	（大阪府・インテックス大阪）
６月３～４日（土～日）	第５０回全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会	（兵庫県姫路市）
６月９～１０日（金～土）	全国脊髄損傷者連合会・第２２回全国総会福岡県大会	（福岡県）

※ 予定日時・場所は変更になる場合がありますのでご了承ください。

※ 全国機関誌『頸損』発行 ４月・８月・１２月（年３回）

※ お問い合わせは該当各支部、本部事務局までお願いいたします。

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

（2022年7月現在）

全国頸髄損傷者連絡会・本部
〒669-1546　兵庫県三田市弥生が丘１丁目１番地の１　フローラ 88 305B　特定非営利活動法人ぽしぶる内
TEL 079-555-6022　e-mail:jaqoffice7@gmail.com　https://k-son.net/
【郵便振替】口座番号:00110-0-62671　口座名義:全国頸髄損傷者連絡会
※ 各支部、地区窓口に連絡がつかない場合は本部にお問い合わせください。
※ 電話でのお問い合わせ等は、平日 10 時～17 時の間にお願いいたします。

福島地区窓口　「福島頸損友の会」
〒961-8031　福島県西白河郡西郷村大字米字中山前 146-1（相山方）
TEL 080-1656-1727　e-mail:hidamari.s@gmail.com　http://fukushima-keitomo.e-whs.net/

栃木頸髄損傷者連絡会
〒320-8508　栃木県宇都宮市若草１丁目 10 番６号　とちぎ福祉プラザ内(2F)
TEL&FAX 028-623-0825　e-mail:keison@plum.plala.or.jp　http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/

東京頸髄損傷者連絡会
〒177-0041　東京都練馬区石神井町 7-1-2　伊藤マンション 205（鴨治方）
TEL 090-8567-5150　e-mail:tokyokeisonn@gmail.com　http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html

神奈川頸髄損傷者連絡会
〒228-0828　神奈川県相模原市麻溝台 696-1　ライム 106 号室（星野方）
TEL&FAX 042-777-5736　e-mail:h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

静岡地区窓口
〒426-0016　静岡県藤枝市郡 1-3-27　NPO 法人障害者生活支援センターおのころ島気付
TEL 054-641-7001　FAX 054-641-7181　e-mail:matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会
〒466-0035　愛知県名古屋市昭和区松風町 2-28　ノーブル千賀 1F　AJU自立生活情報センター内
TEL 052-841-6677　FAX 052-841-6622　e-mail:kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜
〒503-0006　岐阜県大垣市加賀野 4-1-7　ソフトピアジャパン 702　バーチャルメディアエ房内
TEL&FAX 0584-77-0533　e-mail:kson_g@yahoo.co.jp　http://g-kson.net/

京都頸髄損傷者連絡会
〒601-8441　京都府京都市南区西九条南田町4番地　九条住宅B棟 313（村田方）
TEL 090-8886-9377　e-mail:keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会
〒534-0027　大阪府大阪市都島区中野町 3-4-21　ベルエキップ・オグラン1階　自立生活センターあるる内
TEL&FAX 06-6355-0114　e-mail:info@okeison.com　http://okeison.com

兵庫頸髄損傷者連絡会
〒669-1546　兵庫県三田市弥生が丘１丁目１番地の１　フローラ 88 305B　特定非営利活動法人ぽしぶる内
TEL 079-555-6229　FAX 079-553-6401　e-Mail:hkeison@yahoo.co.jp　http://hkeison.net/

香川頸髄損傷者連絡会
〒768-0104　香川県三豊市山本町神田 1223（長谷川方）
TEL 0875-63-3281　e-Mail:tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会
〒799-0433　愛媛県四国中央市豊岡町豊田 336-2（山下方）
TEL 0896-25-1290　e-mail:ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会
〒779-1402　徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻 28 番地（江川方）
TEL 0884-21-1604　e-mail:awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会
〒874-0919 大分県別府市石垣東３丁目３番 16 号 別府 J1 階 NPO 法人自立支援センターおおいた内
TEL 0977-27-5508　FAX 0977-24-4924　e-mail:kkr@jp700.com

愛知支部より：愛知の定番観光名所に名古屋港水族館があります。日本最大の水量と延床面積を誇る水族館であり、迫力満点のイルカショーがいつ行っても大人気です。施設内は車椅子でもストレスなく利用でき、空調完備で体温調節の難しい季節でも安心して楽しめます。公共交通機関を利用して行く場合、名古屋市営地下鉄では駅ホームと車両の段差と隙間の解消を進めているので、車椅子でもより行きやすくなる環境が整ってきています。

編集部通信

●頸損者に役立つ情報、編集企画、また機関誌へのご意見を募集しております

編集部連絡先（担当：宮野）　E-mail：h-miyano@st.rim.or.jp

全国頸損連絡会・本部事務局　E-mail：jaqoffice7@gmail.com

TEL：079-555-6022

●当会では、善意の活動支援寄付もお願いしております

郵便振替口座番号：　00110-0-62671　　口座名義：全国頸髄損傷者連絡会

■機関誌広告募集　年３回発行（４月・８月・１２月）

機関誌「頸損」は、全国頸損会員（約５００名）及び関係する方々に購読していただいています。

当会では、広告掲載して活動支援をしていただける、福祉・医療機器業者の方を募集しております。

当会HP　http://k-son.net/　をご参照いただき、是非、広告掲載をご検討いただけたら幸いです。

［広告掲載要綱］

◎料金：１ページ・２万円　／　半ページ・１万円　（※　１年以上継続契約の場合は半額割引）

◎問い合わせは上記の編集部連絡先、または本部事務局までお願いいたします。

編 集 後 記

先日、会議があり、少し遠出の外出をした。都営地下鉄を使うにあたり、東京都の都営無料パスを久々に使ってみたら、なんと1年くらい有効期限が切れていた。いつもなら、もう少しで切れるから新しいものに変えるために、役所に申請をしていたのだが、あまりにも都営交通を利用しなかったため、気づかずに過ごしていた。これも、まさにコロナ禍による外出自粛の影響によるものが大きいと感じた。他にも期限の切れているものがたくさんあるのではないかと思う。生活スタイルが変わり、今まで外出に使っていたものなどが“ほこり”をかぶったりしていて、外出用のスロープや雨カッパなど、少し確認するいい機会となった。世の中では、基礎疾患を持つ者のコロナ感染症への4回目の予防接種が始まった。皆さん、お住まいの自治体へのご確認を！　（S･K）

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可（毎月六回一・六の日発行）
二〇二二年七月十四日発行　ＳＳＫＡ頸損　通巻第一〇八二五号

編集人　東京都練馬区石神井町七―一―二―二〇五　全国頸髄損傷者連絡会

発行人　東京都世田谷区祖師谷三―一―十七　ヴェルドゥーラ祖師谷一〇二号室　障害者団体定期刊行物協会

全国頸髄損傷者連絡会

〒669-1546
兵庫県三田市弥生が丘１丁目１番地の１
フローラ 88 305B　　特定非営利活動法人ぽしぶる内
TEL：079-555-6022　　Email：jaqoffice7@gmail.com

頒価 250 円

無断転載・複製を禁じます